

信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報
【第26号】
発行人 中澤 寛
事務局 長野市西長野6ノ口
信州大学教育学部内
TEL・FAX (026)238-4370



同窓会としてお手伝いできること

同窓会会長 中澤 寛

浅学非才を顧みず会長職をお引き受けしました。諸先輩をはじめとする同窓の皆さんのご支援をいただきながら、職責を果たしていきたいと考えています。どうかよろしくお願いいたします。

恥ずかしながら、このような立場に立つことになつて、「同窓会の役割」をはじめと考えています。そうは申しませんが、特別の考えが浮かぶはずありません。願うのは、同窓のみなさんが親睦を深めてくださることと後輩の学生さんたちが元気になることを応援したいというのみです。

そんな思いを具現したいということで、学部の学生さんが教職を目指すお気持ちをお手伝いしたいと考えました。そこで、教員採用試験に向けた準備をより効果的に進めていただけるような予算措置を計画しました。

平野学部長先生とお話しさせていただいたとき、本学教育学部生が教職に就く比率が全国的にみてもトツ

プクラスであると聞いて、頼もしく思いました。学校現場に新規採用として仲間入りする教員をみていて、ひいき目かもしれませんが、我が同窓の後輩たちの実践的能力は高いと思つていただけに、なるほどと合点したところです。

教職を目指す学生さんばかりではないという話もあるようですが、同窓のみなさんと後輩の学生さんが共に元気になれると考えました。同窓会としては、予算的なお手伝いが中心となりますが、ソフト面でのお手伝いもいろいろなところでできると思います。学校現場におられる同窓生のみなさん方にも、お力添えいただければと願っています。

同窓会の法人化についてのご指摘もいただいています。可能な範囲で勉強をしたいと考えていますが、結論が出るには時間もかかると思います。一歩ずつ進めていきたいと考えています。どうかよろしくお願いたします。

第十二期同窓会役員名簿

(平成二十三年八月～平成二十五年八月)

- | | | | | | |
|------|------------|----|-------|------|-------|
| 名誉会長 | 平野吉直 | 顧問 | 清水 正 | 矢嶋直徳 | 佐野昌男 |
| | 中田育成 | | 中田宣彦 | | 三寺勝美 |
| | 玉川隆雄 | | 町田 修 | | 深澤弘二 |
| 会 長 | 中澤 寛 | | | | |
| 副会長 | 土屋聖史 | | 青木正治 | | 小林洋子 |
| 監 事 | 三沢弘幸 | | 松本千恵子 | | |
| 本部理事 | 酒井 義 | | 太田美恵子 | | 上條 厚 |
| | 岩田 靖 | | 齊藤忠彦 | | 小林比出代 |
| | 茅野公穂 | | 酒井英樹 | | 安達仁美 |
| 地区理事 | 下伊那 湯澤正農夫 | | | | |
| | 上伊那 増澤 進 | | | | |
| | 諏訪 林 満彦 | | 木曾 | | 寺嶋匡彦 |
| | 北安曇 三ツ井仁 | | 安曇野 | | 降旗良治 |
| | 松本 松下謹四郎 | | 佐久 | | 池田喜忠 |
| | 上小 和田茂一 | | 更埴 | | 小松信美 |
| | 上水内 村松勝視 | | | | |
| | 須坂上高井 堀达明紀 | | | | |
| | 飯山下水内 小林和人 | | | | |
| | 中野下高井 馬場 敬 | | | | |
| | 塩筑 木戸岡和孝 | | | | |
| | 長野 清水豊喜 | | 湯田 博 | | |
| | 高校 富岡 修 | | | | |
| | 県外 功刀道子 | | 井出良子 | | |
| 幹 事 | 中村直人 | | 木内 昇 | | 勝山幸則 |
| | 大上みどり | | 別府 桂 | | 宮澤昌道 |
| | 伊藤冬樹 | | | | |
| 事務局 | 久保信男 | | 伴真理子 | | |

第二十四回 同窓会通常総会報告

平成二十三年度の同窓会通常総会は、八月十一日(木)、長野市岡田町の「ホテル信濃路」において、五十名の出席を得て開催された。

中村直人幹事の進行のもと、太田美恵子副会長の開会宣言、深澤弘二会長の開会挨拶の後、議長団に、増田秀晃、百瀬新治、議事録署名人に、清水豊喜、三ツ井仁の各氏を選任、書記に安達仁美、宮澤昌道の各氏を任命して議事へと移り、次の三議案について審議された。

● 第一号議案

平成二十二年事業報告書、歳入・歳出決算及び財産目録の承認について

総会資料に基づき杵渕恭宏事務局長より平成二十二年事業について、齊藤忠彦幹事より平成二十二年歳入・歳出決算報告及び財産目録について説明がされた。また、竹松徳門、三沢弘幸監事より適正に処理されているとの会計監査の結果が報告され、全員一致で承認された。

● 第二号議案

平成二十三年事業計画書(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について

総会資料に基づき杵渕恭宏事務局長より平成二十三年事業計画(案)について、齊藤忠彦幹事より平成二十三年歳入・歳出予算(案)についての説明があり、全員一致でこれを承認した。

〔平成二十三年事業大綱〕

一、同窓会報(第二十五号)発行、会員、特別会員への郵送

二、研究助成 教育学部留学生後援会基金へ拠出、教育研究に対する補助、学生課外活動への補助

三、学部後援 学部・大学院充実に向けての援助、就職活動への支援
四、組織充実 支部組織の強化、地区代表を通して卒業生の会費未納者への納入依頼、退職校長未納者への納入依頼、新任校長・教頭未納者への納入依頼、在学生未納者への納入依頼
五、長期構想 「信州大学同窓会連合会」への協力、総会のあり方・基本財産の運用、個人情報への取り扱い、HPの充実



第24回同窓会通常総会 会長挨拶



記念講演会 佐野昌男氏

平成22年度信州大学教育学部同窓会一般会計歳入歳出決算書

自 平成22年4月 1日
至 平成23年3月31日

歳入合計額 5,691,097円也
歳出合計額 4,521,079円也

差引残額 1,170,018円也 翌年度へ繰越

〈歳入の部〉

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include 1前年度繰越金, 2会費, 3雑収入, and 歳入合計.

〈歳出の部〉

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Rows include 1会議費, 2事業費, 3事務費, 4事務委託費, 5雑費, 6予備費, and 歳出合計.

● 第三号議案

第十三期役員改選について 深澤会長より会長選挙について諮られ、中澤寛副会長が会長に選出された。中澤会長より、土屋聖史・青木正治・小林洋子会員を副会長に推薦され、全員一致でこれを承認した。中澤新会長より、配布資料によって、監事・理事・幹事が推薦され、全員一致でこれを承認した。中澤新会長より、深澤弘二前会長の顧問就任の披露があった。 議事終了後、臨席の中山裕一郎氏(教育学部副学部長)より祝辞をいただいた。清水厚実氏を表彰し、感謝状と記念品目録を贈呈した。太田美恵子副会長の閉会宣言で総会を終了した。

ご挨拶

教育学部長 平野 吉直



全国の国立教員養成大学・学部は、現在大きな変革の時期を迎えております。信州大学教育学部においても、本年度から十三年ぶりの学部改組を実施し、新たな一歩を踏み出しました。今回の改組では、学校教育教員養成課程、特別支援学校教員養成課程、生涯スポーツ課程、教育カウンセリング課程の四課程をこれまでどおり設置し、各課程の入学定員を若干変更したものの、入学定員二八〇名は変更しないなど、外見上の変更はありません。大きく改革したことは、特に学校教育養成課程の中身です。

第一の変更点は、学校教育教員養成課程では、義務教育段階を見通した教員養成を目指して、また同時に長野県教育委員会からの強い要望にお応えするため、小学校教諭一種免許と中学校教諭一種免許の両方の取得を卒業要件としたことです。

このことと関連し、第二に、これまでは入学時の専攻と入学後の学修分野というやや複雑な構造を改め、入学時から教科別のコースを設定したことです。これに加え、学校教育教員養成課程では、小学校教員として必要な専門的能力を習得することに加え、中学校につながる各教科等のさらなる専門性の習得を目指し、カリキュラムの大幅な改定に着手したとです。

国レベルでは、新たな教職大学院の構想が中央教育審議会・特別部会で協議され、ほぼ大枠が固まりつつあります。これらの方向性が固まれば、同時に免許法の大幅な改訂が示され、教員養成・教員採用・

教員研修を含め、教員養成のあり方等が大きな変革を求められることは確実です。教育学部においても、これらの動向を見据えながら、教職大学院を視野に入れた教育学研究科の改組の検討にとりかかろうとしています。

さらに、平成二十四年度から文部科学省は、「国立教員養成大学・学部に対して、「教員養成機能の充実」に向けたプロジェクト経費を配分し、教員養成改革を強く推し進めています。本学部におきましても、国の進める「教員養成機能の充実」プロジェクトに対し、信州大学らしい特色ある取組、長野県教育委員会と連携し長野県の教育課題に適切に対応できる取組を、附属学校園とともに推進していく所存です。

教育学部の改組に続き、教育学研究科の改組等を予定しておりますが、質の高い学校教員をはじめ教育の専門職を育成するという教育学部の使命は何ら変わりません。これまで以上に、数多くの優秀な指導者を養成していく努力を日々怠らないようにしていきます。

同窓会員の皆様には、日頃から信州大学教育学部の運営と学生の勉学に対して、多大なご理解とご支援をいただいております。特に、教員採用に向けての模擬試験の実施などに多大なご協力をいただいております。教育学部教職員を代表して、心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。



学部の新転任・転退職教員の紹介

【平成二十四年度新転任教員】

- 小林比出代 先生 (言語教育講座)
- 川久保英樹 先生 (技術教育講座)
- 水口 崇 先生 (教育科学講座)

【平成二十三年度転退職教員】

- 山本清隆 先生 (言語教育講座)
- 平成七年四月一日着任、退職
- 増子 潤 先生 (生活科学教育講座)
- 平成二十二年四月一日着任、退職
- 伊原 巧 先生 (言語教育講座)
- 昭和六十一年九月一日着任、定年退職
- 岩永恭雄 先生 (理数科学教育講座)
- 昭和五十六年四月一日着任、定年退職
- 中村浩志 先生 (理数科学教育講座)
- 昭和五十五年八月一日着任、定年退職
- 鈴木次雄 先生 (理数科学教育講座)
- 昭和四十八年四月一日着任、定年退職
- 岡野雅子 先生 (生活科学教育講座)
- 平成十三年四月一日着任、定年退職
- 上田秀洋 先生 (芸術教育講座)
- 昭和五十一年四月一日着任、定年退職
- 山本亮介 先生 (言語教育講座)
- 平成十九年四月一日着任、退職
- 澁澤文隆 先生 (社会科学教育講座)
- 平成十五年四月一日着任、退職
- 栗原 久 先生 (社会科学教育講座)
- 平成十年四月一日着任、退職

学部近況から

学部改組

教育学部学部改組WG

永松

裕希

本年度は4月4日に入学式が行われ、教育学部は288名の新生を迎えました。そしてこの平成24年度入学生から新しい教育組織と新たなカリキュラムのもとでの教育がスタートしました。

今回の改組は、少子化をはじめとする地域社会の変化や学校教育が抱えるさまざまな課題に対して、大学は教員養成をどのように考え、今後どのように進めていくのかを問われる中での取り組みとなりました。幸いながら、教員養成におけるこれまでの実績の高さや長野県教育委員会をはじめとする各関係機関との連携という財産のおかげで、教員養成を担う学部として国との調整の中でも高く評価していただいた点は、卒業生のみならず深く感謝するところです。

新たな教育学部の教育を具体的に紹介いたしますと、今回の学部改組では、次のような点が新しくなりました。

○学校教育教員養成課程、特別支援学校教員養成課程、生涯スポーツ課程、教育カウンセリング課程の4課程での構成はこれまで通りですが、教員を志望する学生の実績や教員需要の当面の増加により、入学定員を学校教育教員養成課程が220名、特別支援学校教員養成課程が20名、生涯スポーツ課程が25名、そして教育カウンセリング課程が15名となりました。

○学校教育教員養成課程は、これまでの7専攻から11コースに再編し、現代教育コースを除くコースのすべてで、小学校及び中学校の双方における児童生徒の育ちを見通すことのできる教員の養成を目的に、小学校教諭一種免許と中学校教諭一種免許の両方の免許取得を卒業要件としました。今後、教育学部の卒業生は、小学校と中学校の教員免許状の両方を有し、義務教育段階を連続的に見通す専門性が一つの特徴になるかと思われま

す。なお、小学校教諭免許と中学校教諭免許に加え、幼稚園教諭免許、特別支援学校教諭免許、高等学校教諭免許及び卒業要件とは異なる教科の中学校教諭免許に際して取得できる態勢に変更はありません。

○学部1年次から4年次までの「教育臨床入門」「教育臨床基礎」「教育臨床演習」「教育実習事前事後指導」「教育実習」及び「教職実践演習」を一元化して連続的に配

置し、これまでも本学部の特徴でありました臨床科目群のさらなる充実を図りました。

新しくなりました各教育組織の概要は、次の通りです。

学校教育教員養成課程

社会の変化や児童・生徒の成長・発達過程で生ずる多様な問題に迅速かつ柔軟に対応できる教員の育成を目指しています。この課程では、初等教育と中等教育の連続性を重視しながら、義務教育教員の養成を中心に据えつつ、幼稚園から高等学校までの教育全体を見通すことができ、総合的な課題解決力を持ち、高度な専門性と実践的指導力を身につけた教員の養成を目的として11のコースが設置されています。

現代教育コース

現代の子ども・学校・社会の現実的・実践的課題をしっかりと見据え、適切に対処できる「臨床的な実践力」の育成を目指しています。また、現代教育コースでは、この現実的・実践的課題に対応する教育課程として、教育実践科学、異文化間教育、ICT活用教育、発達・教育心理の4つのユニットを設けています。

国語教育コース

教育活動に限らず、人間世界のあらゆる社会的活動は「ことば」によってなされています。その「ことば」を学びの核とする国語教育コースでは、全教科の基幹をなす教科としての自覚のもと、国語科における教育内容のすべてを視野に入れながら、母語としての日本語の特質、日本の言語生活・言語文化の特色、日本語の表記や表現、子どもの発達とことばの学び、国語科教育の歴史などを研究します。それにより、確かな言語観と豊かな人間性に支えられた小中学校教員の育成を目指しています。

英語教育コース

英語教育を通して次代を担う学生たちの幅広い人間性を育成すること、それが英語教育コースの究極的教育目標です。教職に就く学生が自信をもって英語を担当できる知識と教養を身につけるとともに、様々な演習などを通じてたしかかな指導力を育てること、そして学問を通して豊かな人間性を形成することを目指しています。

社会科学教育コース

地理・歴史・公民といった社会科学科目の教育を通じて、社会の諸問題について積極的に考える力を養うことは、ど

のような時代においても重要です。本コースでは、その社会科学教育の土台構築のために、

- (1) 知識を高等学校までのものから更に深め、コース所属の学生自身の興味・関心を充実させること
- (2) (1)を通じて社会科学への理解を、社会科学教育実践力につなげていくことを目的としています。

数学教育コース

数学教育に関する専門的力を持った小・中学校教員の養成を目指しています。自分自身が数学をきちんと理解できていないのに、子どもたちに数学を教えらるわけがありません。しかし、自分でわかっているということ、子どもたちの学びを指導できるということは同じではありません。数学教育コースでは、数学の専門的な知識とともに、小手先の指導技術ではなく算数・数学教育の根本に立ち返って、学校教育における算数・数学の指導はどうあるべきかを学び、考えます。

理科教育コース

物理学、化学、生物学、地学などの個別科学における専門的学習や理科教育の理念・目標、指導法、授業研究などの学習を積み重ねる中で、理科の教員としての基礎的で豊かな専門的力量を持ち、論理的で科学的なものの見方・考え方ができ、同時に実践的な指導力を備えた質の高い教員の養成を目指します。豊かな知識を持ち、理科が好きで、その面白さをいきいきと児童生徒に伝えられる教員（理科の伝道師）の育成が目的です。

音楽教育コース

音楽教育コースでは、音楽教育について総合的に研究、教育します。音楽教育の意味や価値を理解し、教育内容・方法、指導や支援のあり方を究めていきます。音楽を理論や実践、実技などの専門的な側面から学び、子ども一人ひとりの個性や特性、知識や表現力などに即したあたたかな教育的対応を可能とする教員の育成を目指しています。

図画工作・美術教育コース

美術は、人の感性や創造の世界に働きかけ、視野を広げ、人生を豊かにします。図画工作・美術教育コースでは、芸術を通して人間形成を前提にして、美術教育の意味や価値を理解し、指導者に必要とされる高い専門性と力量を身につけることを目的としています。美術を実技・理論・臨床等の様々な側面から学び、幅広い知識と実践力を身につけることで、21世紀にふさわしい、豊かな人間性を備えた美術教員の育成を目指します。

保健体育コース

小学校、中学校及び高等学校における体育や保健体育を専門とする教員を養成するためのコースです。本コースでは、小中高のいずれかの学校において、保健や体育の授業をより興味深く、また、より面白く指導することができ、人間味と情熱にあふれた教員の養成を目指します。

ものづくり・技術教育コース

子どもの発達の上で、ものづくりの経験や技能は大変重要です。また、現代社会ではエネルギーや資源、ネットなどの情報技術等々、技術・環境に関わる問題がたくさんあります。ものづくり・技術教育コースでは、こうした課題・問題に対応し、ものづくり・環境について指導できる小学校教員および技術・情報・環境について指導できる中学校技術科(技術・家庭科技術分野)の教員の育成を目指します。

家庭科教育コース

生涯にわたる生活を計画し、「生活の質」(QOL)の向上を考える力を持つ教員を養成することを目的としています。「生活」は様々な事象から成り立つために、広範囲な領域を持ち、様々な接近方法により教育・研究を行っていきます。また、今日の社会が直面する諸課題の解決に深くかかわっているコースです。それらを理解するとともに、主体的に問題を見つけ出し、解決に向けて取り組む力を身に付けることを目指します。

特別支援学校教員養成課程

特別支援学校教員養成課程では、心身の障害や学習困難から生じる特別なニーズを持つ子どもたちに対して、その障害の程度と種別等に応じた適切な教育を行うことのできる教員の養成を目指します。この課程では、障害児教育現場における教育指導に即した固有のカリキュラムに基づき、特別支援教育への強い情熱と関心を持ち、明確な目的意識と実践的な指導力を身につけた人材の養成を目的として、障害のある子どもに対する教育の本質や目標、教育制度や特別支援学校経営、障害のある児童・生徒の心理や発達、障害理解や障害の原因、教育課程や指導法、などを体系的に学習します。

生涯スポーツ課程

地域スポーツコース

現代社会では、生活する人たちの健康を増進して潤いと活力を供給し、生活を充実させていくのに役立つスポーツ

プログラムを提供できる優れた指導者が求められています。地域スポーツコースでは、どんなライフステージの人たちにも優しく地域に貢献できる指導者の育成を目指しています。さらに、スポーツ活動にかける子どもの夢を保護者や学校教員とともに共有し、子どもの成長を喜び合えるような教育を支えるスポーツ指導者の養成をも目指します。

野外教育コース

野外教育コースは、日本で数少ない野外教育の指導者を養成しているコースです。野外教育は、国が推進している子どもたちの「生きる力」の育成、体験活動の充実など、今後の教育に向けて重要な役割を果たすことが期待されています。自然の中で行われる各種アウトドアスポーツや野外教育・環境教育活動について、理論と実践力を備え、これからの日本の野外教育をリードしていくことのできる指導者の育成を目指します。

教育カウンセリング課程

教育カウンセリング課程の特色は、次の3点です。第1に、実習科目の充実です。教育学部共通の学校実習に加え、教育カウンセリング課程独自の「スクールカウンセラー実習」があります。第2に、心理学全般を学ぶことです。臨床心理学(カウンセリング)だけでなく、心理学全般を基礎から学ぶカリキュラムを通して、心理学を社会で活かすことのできる力をつけます。第3に、学校教育の重視です。教育学部に設置されていることを活かして、学校教育に関する教養を高めます。

(改組前)		(改組後)	
学校教育課程 専攻	教育実践科学専攻	現代教育コース	学校教育教員養成課程
	言語教育専攻	外国語教育コース	
	社会科学研究専攻	英語教育コース	
	理数科学教育専攻	数学科教育コース	
	芸術教育専攻	音楽教育コース	
	保健体育専攻	図画工作・美術教育コース	
	生活科学教育専攻	ものづくり・技術教育コース	
特別支援学校課程	障害児教育専攻	特別支援学校教員養成課程	
生涯スポーツ課程	地域スポーツ専攻	地域スポーツコース	生涯スポーツ課程
教育カウンセリング課程	野外教育専攻	野外教育コース	教育カウンセリング課程
	心理臨床専攻		

四七年间にわたる
大学生活を振り返って

中村 浩志
(昭和44年卒)

私が信州大学教育学部に入學したのは、四七年前の昭和四〇年です。それ以来、この三月に定年退職するまで、京都大学理学部の大学院生八年間を除き、三九年前信州大学の学生・教員として過ごしました。私が学部学生であった頃は、まだ学内に木造の建物が多くあり、木造の校舎と新築したばかりの北校舎・南校舎で学びました。また、この頃は教養部ができる前で、入学一年目から卒業まで学部で学び、教養関係の授業は工学部の学生と一緒に受けました。その頃は懐かしく思い出しますが、当時の学部を知っている学部教員は私一人になり、改めて年を取ったことに気付かされます。

四七年间にわたる大学生活を通し、この間一貫し私は鳥の生態研究を続けてきました。実に多くの種類の鳥を研究し、学生たちと多くの興味深い鳥の生態を解明しました。私が鳥の研究を始めるきっかけとなったのは、四七年前、入学早々の五月に参加した戸隠探鳥会でした。戸隠の自然の素晴らしさとそこに棲む野鳥に感動したからです。その戸隠探鳥会は、将来先生になる学生たちに自然の素晴らしさを体験いただくため、故羽田健三先生が始められた一泊二日の自然観察会です。この会は、羽田先生により三〇年間実施され、その後私が三〇年間実施し、昨年六〇周年を迎えました。昨年五月には、この会を歴代主催してきた上は八〇歳になる卒業生から現在の学生までが集まり、六〇周年を祝いましたが、戸隠探鳥会が生態研究室の教育の原点であったことを改めて痛感しました。

私が学生の頃の羽田先生の口癖は、「研究イコール教育」と「一事が万事」という言葉でした。大学では研究を通して学生を教育するという信念と一つのことをきっちりできる人間は他のこともできるといった信念です。この信念は、六〇年間貫かれてきたと思います。学部は、この間に何回も改組を重ね、時代に合ったものに変えてきていますが、教育の原点は昔も今も少しも変わっていないように思います。

同窓会情報

教育学部同窓会・研究補助事業について

本号でも、平成十五年より実施しております同窓会研究補助事業についてお知らせいたします。

本事業の主旨は、①日々の教育研究、教育実践を大切にし、自らの授業改善に努めること、②専門職としての教師自らの教育研究・教育実践を磨くこと、③教育の振興・改善についての情報を共有していくことに置かれています。対象者は教育学部同窓会(同窓会費納入者)で、応募者一律に一万円を補助して

います。
応募希望者は所定の様式(「研究補助願及び研究概要」)にしたがって、同窓会事務局(〒三八〇一八五四四 長野市西長野6-1)にお申し込みください。当該年度の十一月末日を応募締め切りとしています。応募規定などの詳細な内容は、同窓会ホームページをご覧ください。なお、お申し込みの際には必ず事務局までお問い合わせください(研究補助は十名までとなっております、受付可能かどうかの確認のためです)。

平成二十三年度助成交付の研究テーマ

- ① 中沢英明(長野市立古牧小学校)
「東日本大震災〜今私たちができること〜」をテーマに、生き方を学ぶ 総合的な学習の時間の実践的研究
- ② 堀込明紀(須坂市立高甫小学校)
「子どもたちがお互いに関わりながら、運動の

特性を知り技能を高めるための体育学習はどうあったら良いか。」願いや課題を大切にし、体力を高め、どの子どもも楽しめる運動の教材化はどうあったらよいか。

- ③ 湯川 清(木曾町立三岳小学校)
「学校「音楽」の背景となるもの〜西洋音楽の成立及び日本音楽との比較研究〜」
- ④ 高橋 聡(岡谷市立小井川小学校)
「教職員の授業スキル向上について」
- ⑤ 小池秀雄(岡谷市立川岸小学校)
「人とのかわりの中で、自らの生き方を見つめていこうとする子どもを育てる道徳の時間のあり方」
- ⑥ 太田美恵子(長野市立西条小学校)
「自分や友だちのよさに気づき、お互いを大切にして支え合っている子とすることを育てるにはどうあったらよいか」(人権同和教育)
- ⑦ 隈崎俊哉(長野市立篠ノ井東中学校)
仲間とかかわりながら、「わかった自分」「できた自分」を実感する体育学習
- ⑧ 望月省吾(上田市立第三中学校)
「生徒が自ら問題意識を持ち、意欲的に追究していくための支援はどうあったら良いか」
- ⑨ 内田昭利(長野市立戸隠中学校)
「中学生の数学嫌いに關する研究」
- ⑩ 小林洋子(岡谷市立湊小学校)
「対話を育て、高める授業改善をめざして」
- ⑪ 早川葉子(長野市立松ヶ丘小学校)
「数学的な見方考え方を深める、表現活動のあり方」

以上が、平成二十三年度における補助金交付者及び研究テーマに関する一覧です。これらを大いに参考にしていただき、積極的に応募していただきますよう、よろしくお願いいたします。

ホワイトボードを用いた言語活動の活性化

上田市立第三中学校 望月 省吾

上田市立第三中学校では、「言語活動の充実」を重点研究の柱に据えた取り組みをしている。本校の生徒は与えられたことを行動に移す力はあるが、実験・観察中は自分の考えをもとに考えて行動することは少ない実態があったためである。

授業では新学習指導要領施行に伴い重視されるようになった「言語活動の場」を授業中に積極的に設けることにした。具体的な手立てとしては、ホワイトボードを各グループに配り、話し合いの場で活用したことである。生徒達はホワイトボードを媒介として図やイラストで表現しながらお互いの持つイメージを伝え合うことができた。理科に自信がない生徒も、「消す」「かく」が自由なホワイトボードには抵抗なく考えを表現することができていた。ホワイトボードを用いることは、多くの生徒が言語活動に参加するために有効であったと考えられる。

以下は、物質の姿と状態変化で、「物質が状態変化するとき質量は変わらず体積が変わる理由」を粒子モデルで考えた生徒の理解の深まりである。

科学的な見方や考え方を深めていくために、グループでホワイトボードを用いて話し合う場面を設けた。粒子間の隙間だけに着目していた生徒達は、ホワイトボード上でモデルのマグネットが動く様子をとらえ、粒子が動くという仮説を立てた。粒子間の隙間だけに着目していた生徒が、自分の粒子モデルに「粒子の運動性」を加えていくことができた場面である。

結果

前時の結果から自分の考えをまとめる

友と関わる中で見方が変容していく

授業の終末

粒子の運動が気体になるにつれて、激しくなる様子が、表現されている

就職状況

就職部長 寺沢 宏次

本教育学部同窓会の皆様、平素は本教育学部生への就職支援活動における集団・個人模擬面接試験の講師派遣等、並々ならぬご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また今年度は、本教育学部同窓会より助成金を頂き誠にありがとうございました。この助成金は、本学部生の採用模擬筆記試験等の補助として有意義に活用させていただき所存であります。

さて、平成二三年度の本学部卒業生及び大学院教育学研究科修了生の進路状況を下記の表にお示しいたしました。学部卒業生二七七名の内、教員就職者一六三名、教員以外就職者四七名、進学者五一名でした。その内、非教員養成系を除いた教員養成課程卒業生二二三名の教員就職者は一四六名であり、教員就職率は六五・五％と、昨年の六八・四％と比べ三％減少しています。

長野県は、昨年度に比べ、募集人員が小学校で五名減、中学校は二〇名増となっておりますが、相変わらず難関である状況は変わっておりません。本教育学部では、集団・個人模擬面接試験、教員採用試験のための正規採用者の体験談、模擬筆記試験に加え、複数県受験の視野にも視野を入れるよう指導したり、大学推薦の制度を利用し、特別枠での受験などを推進する等、さまざまな工夫と努力を重ねてきております。昨年、信州大学教育学部の非教員養成系を除いた教員就職率は全国で6位に位置しております。今年度は「教員就職率日本一プロジェクト」が信州大学のプロジェクトとして予算化され、発足いたしました。こうしたことを踏まえ、今後とも教育学部一丸となって、より一層邁進していく所存であります。同窓会組織の皆様のご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成23年度卒業生・修了生 進路状況

Table with columns for '就職・進学別' (Employment/Advanced Study), '就 職' (Employment) - 内 (In), 外 (Out), '進 学' (Advanced Study) - 大 (University), 院 (Graduate School), 専 (Specialized), 小 (Elementary), 現 (Current), 家 (Home), 臨 (Temporary), 未 (Undecided), 合 (Total), 備 (Remarks). Rows include '教員養成課程' (Teacher Training Course) and '非教員養成系' (Non-Teacher Training Course) with various subjects like '国語教育' (Language Education), '数学教育' (Mathematics Education), etc.

(注) () は臨探で内数、○は外国人留学生で内数

就職率(学部)(進学者を除く) 92.92%
教員就職率(学部)(進学者を除く) 72.12%
教員養成課程卒業生に対する教員就職率 65.47%

信州大学教育学部同窓会

第二十五回通常総会(通知)

日時
平成24年8月11日(土)
午前10時より

会場
長野市岡田町
「ホテル信濃路」

- 次第
1. 開会宣言
 2. 会長挨拶
 3. 議長団選任
 4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
 5. 議事
第一号議案 平成23年度事業報告及び歳入・歳出決算報告について
第二号議案 平成24年度事業計画(案)及び歳入・歳出予算(案)の承認について
第三号議案 役員交代について
 6. 来賓紹介、代表挨拶
 7. 閉会宣言

記念講演会：12時より
講師/日詰 正文氏

祝賀懇親会：13時より

記念講演のご案内(一般公開)

『発達障害のある子に関わる学校への期待』

日詰 正文氏

発達障害について、保健・福祉の分野を中心に行政の立場から携わってきた日詰氏に、東日本震災の被災地支援等の話題も交え、信州の教育の現場でどのような支援や指導が求められているかお話しいただく。

発達障害者支援法が施行され、社会全体で様々な分野で支援を進めようとしている現在、学校現場はその中心にあつて大きな影響を与える存在となっている。

しかしながら、「教育手段のための教育実践」に留まり、学校以外の場所で行われている裾野の広い支援とは切り離された実践も少なくない。例えば、「カードを使ったコミュニケーション」が学校以外の場所ですべて使われないような状態でも、何年も同じカード教材を使い続ける。「静かな環境で働く職場が沢山あるにもかかわらず、音のうるさい場所に慣れなければいけない」という教育を行う。」など、

善意からくる誤解も多い。

発達障害のある子どもも地域の子どもも集団の一員である。東日本震災の被災地で、発達障害児の家族が、「うちの子は『があたく』だけど、みんなとつながっていけば大丈夫。」と思えるようになっていった地域の中には、学校があつたということ改め確認したい。

現在、長野県健康福祉部健康長寿課精神保健係主任(発達障害者支援員)。

金沢大学文学部卒業後、教育学部特殊教育特別専攻科言語障害児教育課程を修了。平成元年度から長野市若里の「精神保健福祉センター」内にある「発達障害支援センター」で発達障害担当として勤務。その後、平成十九年度から厚生労働省社会援護局精神障害保健課発達障害対策専門官、平成二十三年度から現職。

高校教諭の経験もある。言語聴覚士。千曲市出身。日本発達障害ネットワーク理事。

著書に『ペアレント・メンター入門講座 発達障害の子どもをもつ親が行なう親支援』(学苑社・共著)などがある。

記念講演終了後、「ホテル信濃路」において祝賀懇親会(会費四、〇〇〇円)を開催します。
こちらへも多数ご参加くださいますようお願いいたします。申し込みは同封の葉書で事務局までお願いいたします。

事務局便り

〇訃報

第二期同窓会長で顧問の倉田稔先生におかれましては、去る平成二十四年一月二十三日に、第三期同窓会長で顧問の新井好仁先生におかれましては、去る平成二十四年五月十日にご逝去されました。謹んでおくりやみ申し上げますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

〇研究補助受付中

研究補助申請を四月より受け付けております。詳細は同窓会ホームページをご覧ください。また、本号の六ページ「同窓会情報」欄をご参照ください。昨年度の助成交付の研究テーマなどが掲載されております。

〇住所変更をお忘れなく

転居の際には住所変更の届を事務局宛てにお願い致します。メールでも結構です。

〇会費の二重払いについて

同窓会費の二重払いに注意してください。同窓会費は終身会費です。未納者には、後日、納入願いの書面が届きます。二重払いの場合にはお返ししますが、振り込み手数料等がかかりますので全額返金はできません。

〇事務局の交代

平成十三年より事務局長をお勤めいただきました杵渕恭宏先生は三月末日をもちましてご退職されました。なお、四月より久保信男先生にお勤めいただいております。

事務局連絡先

電話 026-238-4370
月・水・金 9:30~16:30
HP <http://taaedu.shinshu-u.ac.jp>
Email kdousou@shinshu-u.ac.jp